文化財見学シリーズ㉘　姫路市教育委員会文化部文化課（平成４年２月29日発行）
（平成11年９月25日再版）

『別 所 町』をたずねて

姫路市別所町は、中播丘陵の南麓、天川の中流域に位置し、高砂市と境界を接する。地名の由来については、中世の別納所が転訛したものといわれている。『増訂印南郡誌』に「別所新は旧名を寺田と称せり」とあるが、寺田という地名は、寺院の所領田とみられ、京都大徳寺の塔頭徳禅寺の寺領であったので、寺田とよばれたものであろう。姫路城主本多忠政は、別所は所を別つと読み忌名であるとし、嘉字により福居村と改称した。

「天保郷帳」によると、本村のうち佐土、佐土新は大塩組に、北宿、小林、福居、福居新は西牧組に属したが、明治９年、福居村と福居新村が合併した際、再び別所村とした。明治22年、町村制実施により佐土、佐土新、別所、北宿、小林の５か村によって別所村が成立し印南郡に属した。昭和29年、兵庫県から米田町、東神吉村、西神吉村、阿弥陀村、別所村の５か町村合併計画が示されるに及んで、村民は姫路市に合併を希望し、昭和32年10月１日合併の実現をみた。これによって別所村の大字は、別所町を冠称して姫路市の大字に継承された。別所町家具町は、もと佐土と佐土新の各一部で、姫路市内と周辺の木工業者が協同組合を設立、区画整理を施行、新町名となった。

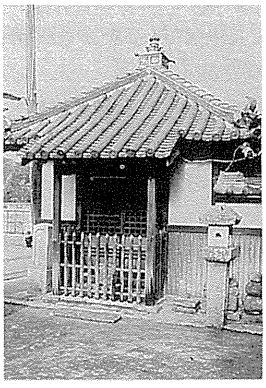
日吉神社（別所）　もと山王権現、天照大神、牛頭天王、薬師如来を合祀していたが、明治初年の神仏分離により、江州日吉神社より大山祇（おおやまづみ）神を勧請、雨神として知られる。参道入口の常夜燈は、明治20年に雨乞開願によって建立されたもの。境内に雨乞開願記念碑、当社の巫女（みこ）・安藝刀自の碑がある。石段脇の石燈籠は、文化７年（1810）、寛政10年（1798）銘、願主当村市次郎、願主名取川良助・世話人御船川亀蔵の寄進によるもの。社殿は昭和63年11月に焼失したが、「文化十一歳（1814）甲戌　深志野邑瓦師　仲兵衛」銘の鬼瓦が残っている。参道入口に、国土地理院の一等水準点が置かれている。

別所の獅子舞　日吉神社の秋祭り（10月第２土曜・日曜）に奉納される。

写真提供　別所西獅子舞保存会

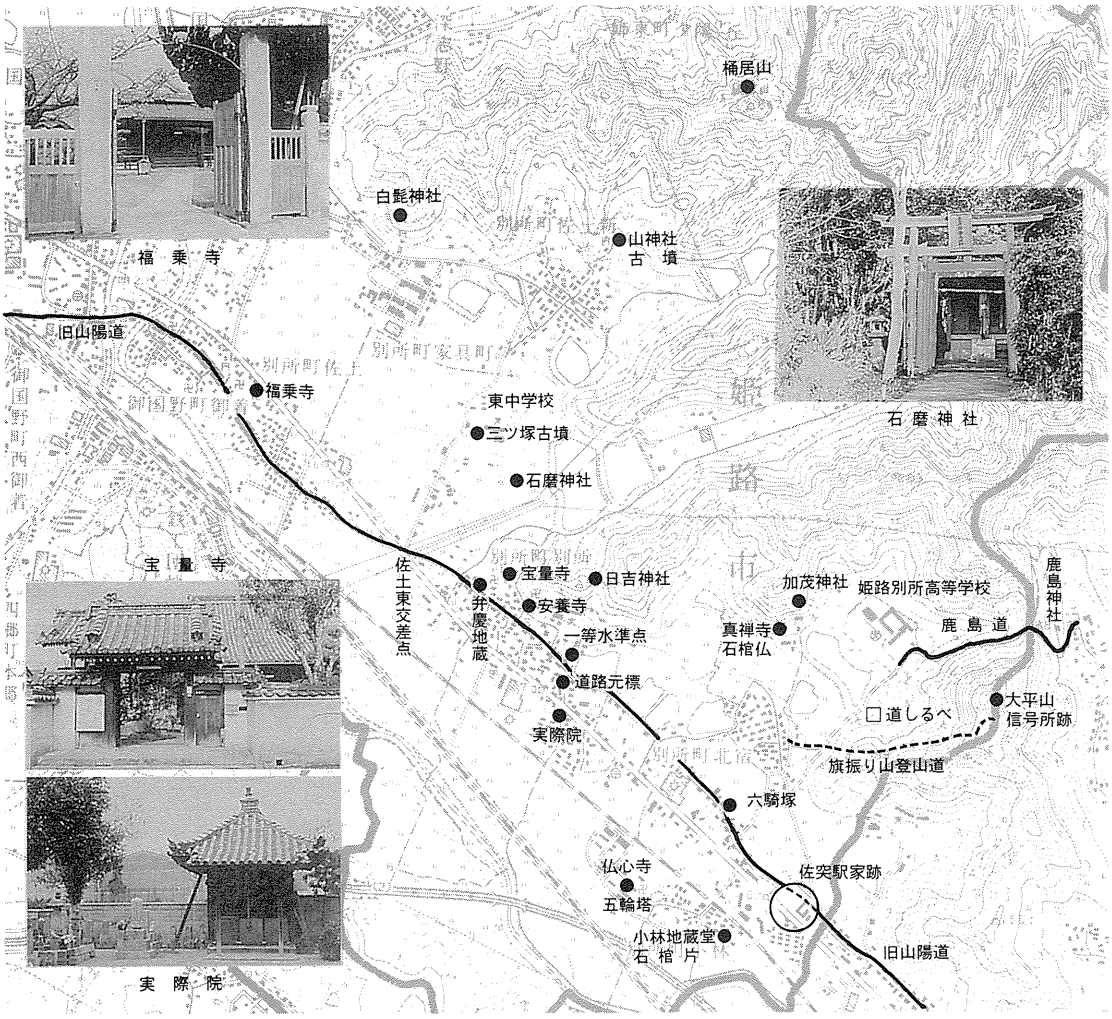
弁慶地蔵（別所）　別所の旧山陽道沿いにあり、別名泡子地蔵とよばれる。『別所村史』によると、弁慶の母は山廼井といって福居村（別所）の生まれ。白拍子（しらびょうし）となって熊野神社別当との間に弁慶を生んだ。のち書写山に預けられた弁慶が、京からの帰途、福居村庄屋の娘玉苗と一夜を共にしたのが、この地蔵堂であると伝える。本尊は、凝灰岩質の板石を彫りくぼめ、地蔵坐像を陽刻し「天文二二年（1535）乙未八月廿六日」ほかの銘文がある。もと佐土との境にある川のあたりに埋まっていたのを、今の場所に移したもので、かって子宝地蔵として参拝者も多く、街道沿いに弁慶の力餅を売る店があったといわれる。堂前に、巡礼三十三度供𩜱塔（享保八年銘）や一石五輪塔などがある。

註・「二二」は四、「𩜱」は養の異体字。

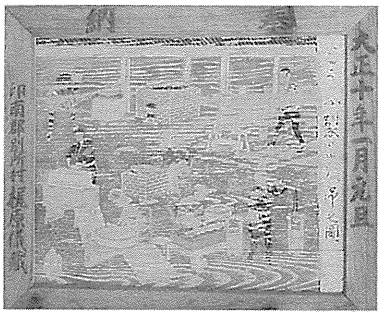


弁 慶 地 蔵

雨乞開願常夜燈
日 吉 神 社

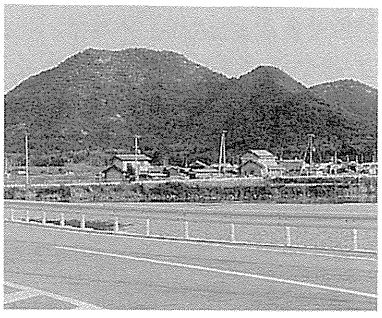


山神社（佐土新）　祭神は大山祇神。もと佐土と佐土新は、白髭神社の氏子であったが、明治初年に分離した。境内と玉垣に接して2基の古墳があり、いずれも横穴式石室古墳。拝殿棟木の棟札に、「辛未明治四年三月　庄屋奥村木十郎　組頭原惣平」などの名がみられる。拝殿の「とうふ製造順序之図」絵馬は、大正十年一月元旦に、印南郡別所村梶原儀蔵が奉納したもので、豆腐の製造から販売までが描かれている。境内の開村三百年記念碑は、明暦元年(1655)、姫路城主榊原忠次によって開村されてから、300年目を記念して、昭和29年に建立されたものである。



とうふ製造順序之図絵馬

大平山旗振り信号所跡（北宿）　江戸時代、大阪堂島には各藩の蔵屋敷が軒をならべ、米相場がたち、明治以降も米穀取引所が置かれ、米相場は旗振り通信によって、各地に伝達されていた。『別所村史』によると、明治27年頃、北宿の大平山頂上に、堂島と兵庫の米相場を姫路に伝達する信号所が置かれ、北宿の村民3名が、これに従事していたとある。信号の経路は、堂島－尼崎－御影山－須磨一の谷－魚住金ケ崎山－北宿大平山－姫路となっており、途中に兵庫の相場をうける鷹取山、加東郡方面への中継点魚橋山があった。大平山信号所は、山頂から南下した岩場付近とみられ、土器片の散布地があり、北宿集落から専用登山道の跡も認められている。


大　平　山

六騎塚（北宿）　別名喧嘩塚ともよばれる。北宿の旧山陽道北側に、亀趺（きふ）とよばれる亀形の台上に碑が建てられており、「備後守児嶋君墓　嘉永三年庚戌年（1850）五月十九日　左和田清左衛門範一建之」と彫られている。『太平記』によれば、南北朝時代の延元元年、足利尊氏が大軍を率いて九州から東上してくるのを、備後守範長と高徳が迎え討ったが、戦に敗れ最後に主従6騎となり、阿弥陀宿の辻堂で自害したといわれている。史蹟六騎塚の碑は、大正12年に兵庫県が建立したもの。

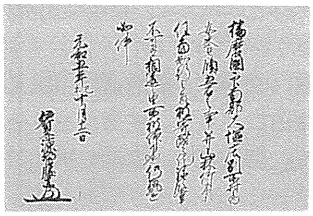
六騎塚

正覚山仏心寺（小林）　浄土宗阿弥陀時光寺の末寺、本尊は阿弥陀如来で、俊長坊兆玄の作と伝えられる。『増訂印南郡誌』に、もと阿弥陀堂といったが、明治9年廃寺になったとある。本堂の鬼瓦に「天保十三年（1842）寅ノ三月　深志野村　瓦工　加野氏甚平」の銘がある。境内の鞘堂（さやどう）に小林八幡宮・天満宮を祀り、横に石棺などが保存されている。

仏心寺

石造五輪塔

石造五輪塔（小林）　仏心寺裏の墓地にあり凝灰岩製。いちおう各部は完備しているが、火輪（笠石）と風輪（受花）の一部が欠け、空輪（宝珠）は後補である。各輪の四面に四門の梵字を配し、書体は端正な薬研彫り、地輪（基礎）は、やや下ぶくれで安定感がある。無銘であるが、様式手法上から鎌倉時代の造立とみられ、県指定の文化財となっている。



播磨国印南郡大塩庄
別所村之内安養寺領
五石之事并山林竹木
等任當知行之旨被寄
附之訖弥領掌不可有
相違之由所被仰下也
仍執達如件
元和五年己未
十月十二日
伊賀守
源朝臣勝重（花押）

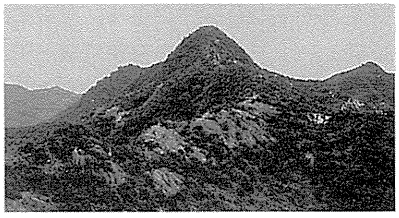
寺領寄附執達状

西来山安養寺（別所）　本尊は阿弥陀如来、曹洞宗で姫路景福寺の末寺。寺記によれば、天平9年聖武天皇の勅願による草創といわれる。『姫路城史』に、天正7年（1579）、羽柴秀吉は御着城攻めに際し、まず別所村安養寺と民家に放火、御着村南方の火の山（南山）に営した。このとき安養寺衆徒も御着城に立て籠もったとある。安養寺文書に、徳川秀忠が元和5年(1619)、寺領5石を寄附した京都所司代板倉勝重の執達状がある。

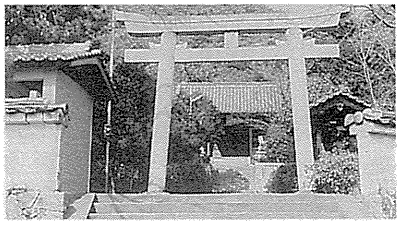
三ツ塚古墳（別所）　市立東中学校の校庭に保存されている横穴式石室古墳。佐土新村前古墳ともよばれ、『遺跡分布地図及び地名表』によれば、玄室の長さ4㍍、高さ2.5㍍の円墳とあるが、出土遺物など詳細は不明となっている。

三ツ塚古墳

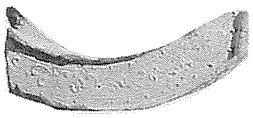
桶居山（佐土新）　佐土新の北、飾東町夕陽ケ丘の南にあり標高247.56メートル。地元では、おけすけ山とよび、桶伏山・桶据山・桶助山などの別名がある。『大正の姫路』高橋秀吉著に「オケスエ山が本名だが、子供達はなまってオケスケ山という。200メートルそこそこであるが、米の取引相場の通信に旗振山として、要地とされていたのも昔話となってしまった」とある。山頂に三等三角点が置かれ、『播磨鑑』によれば、この山で宮本武蔵が天狗より兵法を習ったといわれる。


桶居山

加茂神社（北宿）　祭神は別雷神（わけいかづちがみ）。北宿は、もと牛谷円山にあった天満神社の氏子であったが、のち石鳥居を受け取って、現在地に分離したといわれる。一説に小林字加茂に社があったともいわれる。石鳥居は、宝暦7年（1757）銘で凝灰岩製。手水鉢は享和2年（1802）銘、石燈籠は安永3年（1774）銘。現社殿は昭和63年に改修築されたもの。

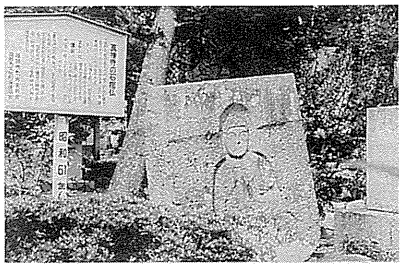

加茂神社

佐突駅家跡（北宿）　古代山陽道は、都と九州大宰府を結ぶ幹線官道。佐突駅家は、賀古（加古川）と、草上（姫路）の中間に設置された駅家で、別所町の北宿遺跡が、佐突駅家跡とみられている。別所小学校に、北宿遺跡出土の古瓦・珠文帯均正唐草文軒平瓦が保管されている。



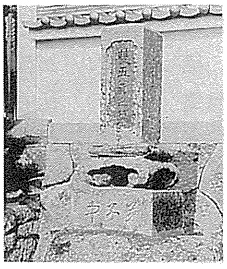
北宿遺跡出土古瓦

八王山真禅寺（北宿）　臨済宗妙心寺派、本尊は観世音菩薩。天正年間、僧呑鶴が草庵を結んで礼拝誦経の道場としたのがはじまりといわれる。本堂前の石棺仏は、現高1.08㍍、家形石棺の蓋石の内面に阿弥陀坐像を彫り、上部に庇様のものを作る。凝灰岩製で「文永二乙丑（1265）十一月十日」の銘がある。



真禅寺

井上重右衛門の墓（北宿）　真禅寺山門右手にあり「雙五翁之墓」と刻まれている。雙五翁井上重右衛門は、文化12年（1815）北宿村に生まれ、自宅に寺小屋を設けて子弟の教育に当たっていたが、時の悪政に対し、村民を代表して奉行所へ直訴し、これを改めさせたといわれる。墓塔は明治10年、重右衛門の弟子達によって建立されたもの。

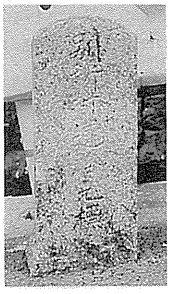


雙五翁之墓

鹿島道（北宿）　鹿島道は山越えの鹿島神社参道で、別所高校前に登山口がある。鞍部にある公園を抜けると、神社の拝殿横に出る。高校の南、横池の東に道標が建てられており、「左かしま道」とある。高さ53センチ、花崗岩製で田中宗八と施刻されている。

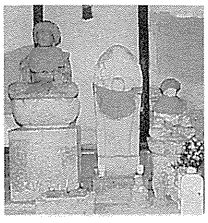
別所村道路元標（別所）　表面に、別所村道路元標と施刻、高さ65センチ、25センチ角。その位置については大正11年8月の内務省令に「表示する道路に面し、最近距離において道端に建設すべし」と定められている。姫路市内には、亡失も含めて41本の道路元標が設置されており、別所村道路元標の位置については、兵庫県告示（大正9年）によって、印南郡別所村別所東上代（ひがしうわだい）1635地先地番となっている。

◀鹿島道・道標



▶別所村道路元標

小林地蔵石仏（小林）　小林集落の東端、JR山陽線脇の公園に地蔵堂がある。一願寿福地蔵尊とあり、3体の地蔵石仏が祀られている。地蔵坐像は、高さ1.42㍍、正面に「奉書写大乗妙典　寛保四年（1744）正月廿四日」の銘があり、他の1体は、凝灰岩製で舟形光背をもつ一石彫成の地蔵立像。堂の横に、縄掛突起をもつ石棺片がある。その形から安産と母乳の出がよくなるという民間信仰の対象になっている。



小林地蔵

白髭神社

白髭神社（佐土）　祭神は白髭大神。もと増位山の鎮守で、佐土字北出口に祀られていたが、その後、現在地に移されたといわれる。参道の石鳥居には「元禄五壬申年（1692）」の銘があり、凝灰岩製の明神鳥居。拝殿内に参宮絵馬や、羽子板絵馬が奉納されている。神殿前両脇に、小型の狛犬一対が置かれ、末社に仏像が祀られている。

旧山陽道と国道2号線（佐土東交差点）　別所町付近の国道2号線は、昭和8年、幅員75尺（22.7㍍）、コンクリート舗装で築造されたもの。

旧山陽道と国道2号線

■編集　木　谷　幸　夫（姫路市文化財嘱託調査員）